

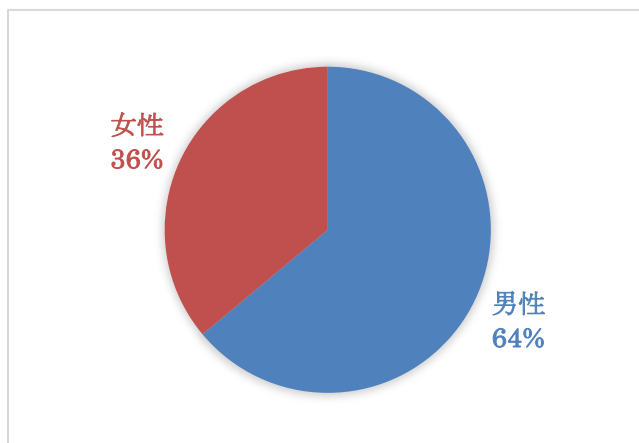
株式会社はこだて西部まちづく Re-Design 会社設立記念
「函館市西部地区まちぐらしシンポジウム」 視聴者アンケート集計結果

函館市西部地区再整備事業に関する意識や地域活動への参加状況を把握し、今後の「西部地区のまちづくり」の推進に向けた基礎資料とすることを目的としてアンケート調査を実施しました。ご協力いただきました市民のみなさん・団体のみなさん、ありがとうございました。

- 視聴期間 令和3年8月28日（土）～9月30日（木）
- 視聴回数 1,870 回数
 - ・「ビデオ・ザ・キッドチャンネル」視聴回数（当日ライブ配信含む）1,423 回
 - ・「函館市公式動画チャンネル」視聴回数 447 回
- 回答者数 61 名
- 内容結果 下記のとおり

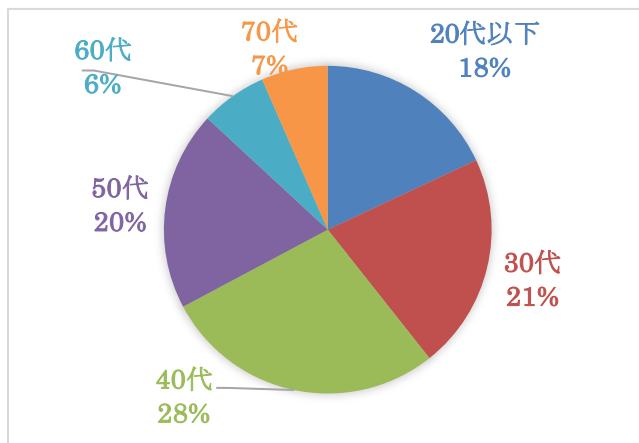
【1】性別

男性	39	63.9%
女性	22	36.1%



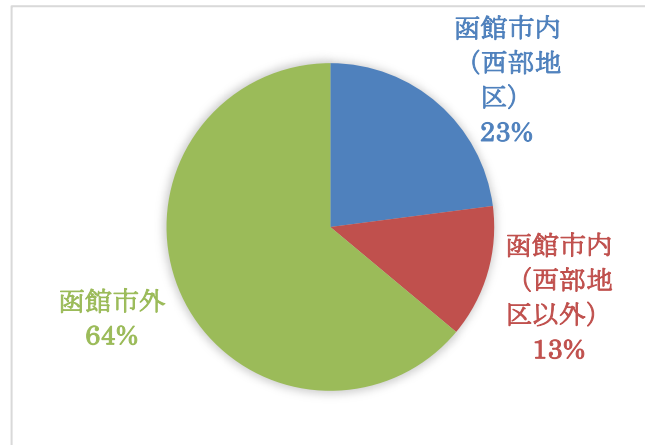
【2】年齢

20代以下	11	18.0%
30代	13	21.3%
40代	17	27.9%
50代	12	19.6%
60代	4	6.6%
70代	4	6.6%
80代以上	0	0.0%



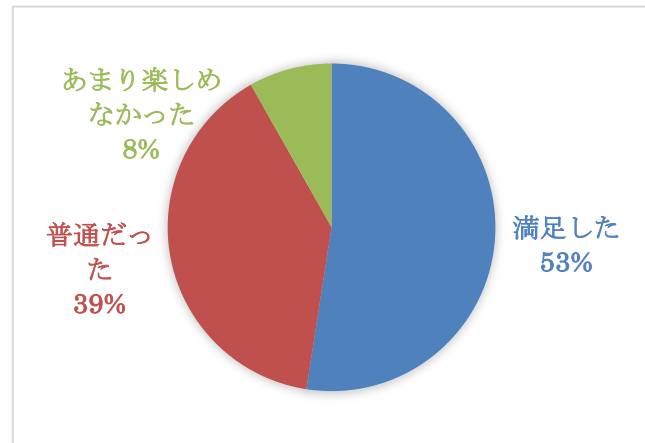
【3】お住まい

函館市内（西部地区）	14	23.0%
函館市内（西部地区以外）	8	13.1%
函館市外	39	63.9%



【4】シンポジウムの満足度

満足した	32	52.5%
普通だった	24	39.3%
あまり楽しめなかった	5	8.2%

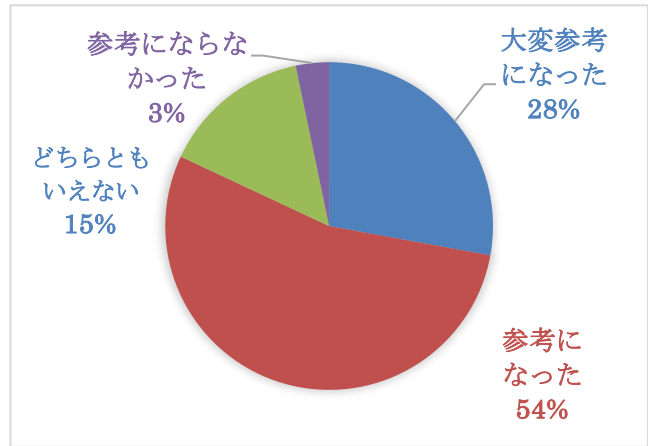


【4】シンポジウムの満足度 「あまり楽しめなかった」理由

- ・パネラーが多すぎて焦点ぼけ。どう見ても函館の現状を把握している人はいないよう。
- ・基調講演は「満足した」、パネルディスカッションは「あまり楽しめなかった」。
- ・新会社設立の為の企画なのに新会社の理念も方向性も何も示されない事にビックリ!! 覚悟を感じない。
- ・良くも悪くも人の良い古くからの函館の住民の思い出や資産を古い物を残すという美しい言葉でリサーチし一部の人脈の物にしている。

【5】基調講演・パネルディスカッションの内容について

大変参考になった	17	27.9%
参考になった	33	54.1%
どちらともいえない	9	14.7%
参考にならなかった	2	3.3%

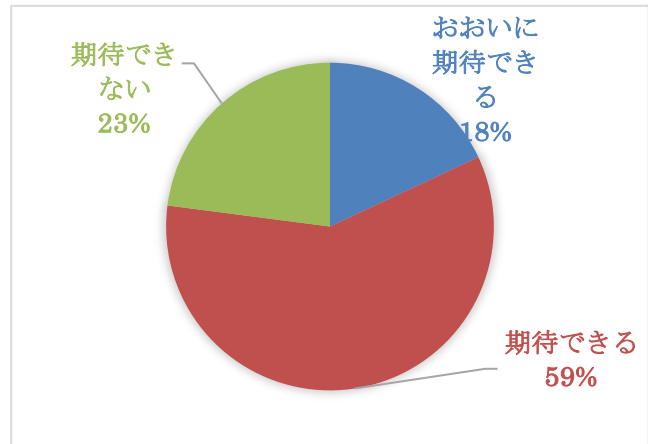


【5】基調講演・パネルディスカッションの内容について 「参考にならなかった」理由

- ・具体性に非常に乏しい，新規の町づくりの最初の基調講演者は場違い。
- ・ハード派のシンポだった感じ。サロンに 2000 万円・年ですか？市税を注ぎ込んですすめるには学者評論家は要らない！！。

【6】今回のシンポジウムを通じて，西部地区のこれからのまちづくりに期待ができますか？

おおいに期待できる	11	18.0%
期待できる	36	59.0%
期待できない	14	23.0%



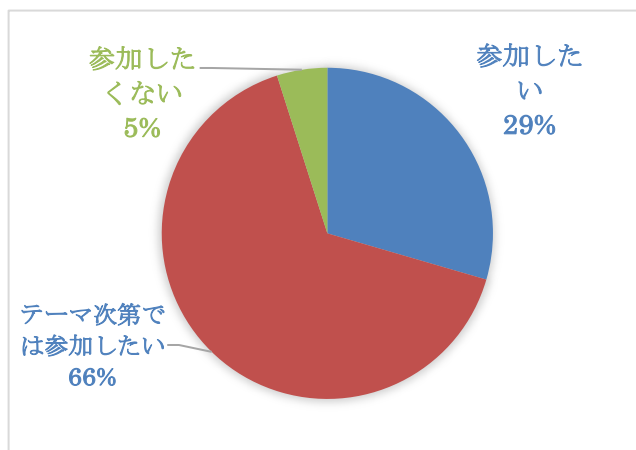
【6】今回のシンポジウムを通じて，西部地区のこれからのまちづくりに期待ができますか 「期待できない」理由

- ・はこだて西部まちづく Re-Design がなんなのかよく伝わらなかった。
- ・具体性に乏しい。
- ・今回を契機に何かが変わるとは思えなかったが，よい意見を取り入れていってほしい。
- ・函館には官公庁からの業務発注に依存するパラサイト企業が多く，自発的にリスクを取ってまちづくりに取り組む民間が少ないから。
- ・問題点の整理が十分に行われなくて，事業にかかること自体が間違い。先に市民の声を聞け。
- ・具体的に何のためのまちづくりか，Re-Designは何をするのか，将来像が見えてきませんでした。

- ・市役所。
- ・方法論が違う。
- ・具体的にどう動くかが、今後作られるため、未定。
- ・不動産屋の集まりにしか見えない。
- ・何十年も前から同じような事をしている。
- ・数値目標、どこまでやるのかが不明瞭だったため。具体的に地域住民とどのようなことをしていくのかイメージが湧きにくかったため。
- ・函館の若者が函館を愛していない状況を変えなければ、典型的な「函館」である西部地区に若者が住みたい、残りたい、と思うことはないだろうからです。
- ・責任有る事業計画と進行状況、評価をあきらかにした枠組みがみえてこない。

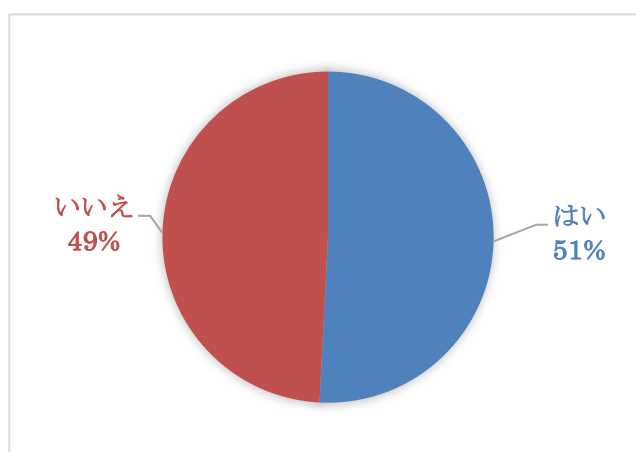
【7】 今回のような機会があれば、今後も参加したいですか？

参加したい	18	29.5%
テーマ次第では参加したい	40	65.6%
参加したくない	3	4.9%



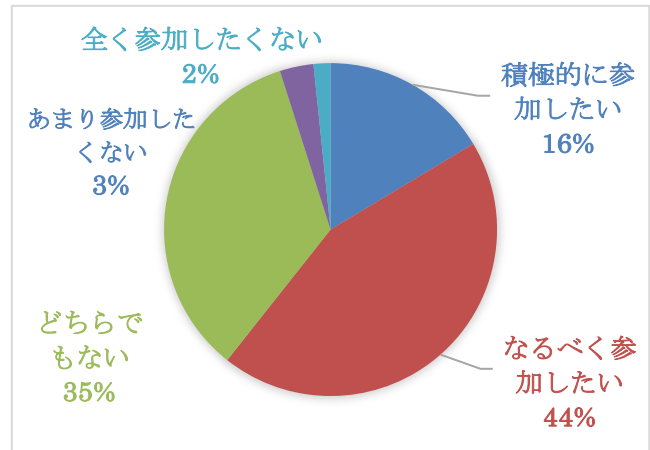
【8】 これまでにまちづくり活動に参加したことがありますか？

はい	31	50.8%
いいえ	30	49.2%



【9】 今回のシンポジウムをきっかけに、まちづくり活動に参加したいと思いますか？

積極的に参加したい	10	16.4%
なるべく参加したい	27	44.3%
どちらでもない	21	34.4%
あまり参加したくない	2	3.3%
全く参加したくない	1	1.6%



【10】 今後、まちづくりに関して学びたいことがございましたらご記入ください。

- ・地主さんの思いにまず答えることから、まちづくりが始まるのかと感心しました。自分でも参加できることがあれば、まず参加します。
- ・岡崎さんの話が良かった。
- ・先頭に立ってオガールを立ち上げた岡崎さんや、実際に取り組んだ黒石をご紹介くださった北原先生など実際にご自身で行動されたことをベースにした話をお聞きするのは大変刺激的で参考になります。
- ・YouTube のアーカイブがなければ、内容を知らず仕舞いだったと思います。オンライン配信をありがとうございました。まちづくりへの参加にちょうど興味を持ったところで、今どのような人々が何を考えているのかを教えていただけて、とても有意義でした。どの方のコメントも素晴らしかったですが、特に岡崎さんのお話に感動しました。今後に関しては、フルタイム勤務で時間がない身でもまちづくりに貢献できる仕組みを学びたいです。
- ・人口減少とうまく付き合っどうやって街づくりをすれば、街に活気を戻せるのか色々な有識者の話を聞いて学びたい。西部地区だけではなく、函館全体の問題だと思う。
- ・正しい発想は事実を正確に把握するところから始まるのだと思う。函館市の場合、「函館市統計書」は有力な情報源であるが、まとまったものが出されるのが極端に遅すぎる。どこかで、函館市を領域別に数字でとらえる集い、講習会をやって欲しいと思う。函館市の収益、観光、教育、社会福祉関連、人口移動、建築物、道路など。また、RESAS など不慣れな人がほとんどだと思うので、この使い方の講習会なども有益ではないか。e-stat など国の情報源へのアクセスも同様である。これらをきちんと把握したうえで、街をどうするか考えるようにしたい。こういう事が多くの市民をまちづくりに引き込むきっかけづくりになるのではないかと考えている。岡崎正信さんの発想は示唆に富むことが多いが、その前段に現状を正しく把握する作業があったはずである。

【11】今後、まちづくりに関して話を聞いてみたい講師等がおりましたらご記入ください。

- ・木下齊さん，爲永 崇志さん。
- ・株式会社オガールの岡崎氏のお話をもう少しゆっくり聞きたかった。この事業に関わっていただくことはできないのでしょうか。
- ・岡崎さんの話をもう少し時間をとって聞いてみたいです。
- ・ローカルベンチャーの本の著者の牧大介さん。
- ・岡崎氏のお話を再度聞いてみたい。氏が手掛けたプロジェクトは、街の規模も違うし西部地区の問題とは大きく異なるが、過疎化を止めた実績があるからそれをやった人の話は引き込まれるし、自信に溢れ説得力がある。岡崎氏に限らず、自分だったらこうするとアイデアを言える講師や失敗例を色々紹介できる人の話を聞きたい。大学教授とかより、民間企業の代表の方が面白いアイデアがあると思うし、利益も追及するから覚悟を持ったプロジェクトを進めれるのかなと思う。
- ・藻谷浩介（日本総研） 数字で把握する町づくり・竹中平蔵 経営政治全般・橋本徹 政治，まちづくり・石橋良治（島根県邑南町町長），これが難しければ盛田昌彦（鹿部町町長）。A級グルメ推進・樋渡啓祐（佐賀県武雄市前市長），町おこし・田上富久（長崎市長）まちづくり長崎の通行用に作られたエスカレーターの効用など
- ・岡崎さんがすすめる講師を聞いて呼んでほしい。
- ・小山進（ブランディング）。
- ・岡崎正信氏。
- ・西部地域で古民家再生している富樫さん。十字街の梶原さん，観光協会の飯野智子さん，ほか。
- ・まちなかプロジェクトの山内さん。
- ・オガール広場や星のやのランドスケープデザインに関わった長谷川浩己さん。
- ・嶋田洋平氏，らいおん建築事務所代表取締役蔵持京治氏，日本政府観光局理事（地域交通などに精通@国交省）木下 齊氏，エリア・イノベーション・アライアンス代表理事，小山薫堂氏，オレンジ・アンド・パートナーズ代表取締役社長。
- ・原 武史先生，東急電鉄，阪急電鉄等の沿線開発の専門家。
- ・安藤 忠雄氏，隈 研吾 氏，藤本 壮介 氏，佐藤 オオキ 氏。
- ・オガール岡崎さん，みかん組竹内さん。
- ・岡崎正信さん，北原さん，未来大学の田柳先生。
- ・IIHOEの川北さんと，どうやってうまい町会運営ができるか，一つ町会の中の人と話しながらやっていくとか良いかもしれませんね。
- ・山形県最上総合振興局の坂本健太郎さん。高校卒業とともに地域を離れる若者が，将来ジモトへ戻りたくなるような「種まき」をする「最上ジモト大学」の仕掛け人。人が離れてしまった西部地区に，地元出身の若手が戻ってくるためにはどんな「仕込み」が必要か，ヒントになるでしょう。もう一人は小樽の建築家，福島慶介さん。地域の歴史的建築物をリノベートして，商業的に活用することにこだわっている仕掛け人。
- ・司会者変更，若い人材を登用すべき。
- ・岡崎さん。

【12】今後の西部地区のまちづくりに関するご提案・ご意見等がございましたら、ご自由に記入ください。

- ・西部地区まちづくりをきっかけに、道南の暮らしがもっと良い物に、誰もが永く暮らしていけて、沢山の方が住みたくなる、素敵な町になりますように。
- ・はこだて西部まちづく Re-Design の解説動画を希望します。
- ・基調講演と「市民参加」についてのディスカッションが大変参考になりました。広範囲の地区内のどこでどういう動きが生じているのか、これからの「再整備が進んでいる」「まちが変わりつつある」感の醸成と、成功体験の情報発信が大事だと感じました。
- ・地元の企業、業者が持っているノウハウ、情報をどのように取り入れていくか。どのような形で協力していただくか。地主さんのお話がたくさん出ていましたが、函館、西部地区特有の課題もあり、今後うまく進めていけるのか疑問に思う。
- ・私は函館市外の者ですが、これだけ資源のある街なのがうらやましいです。ただ夜景も古い建物も大切ですが、ほかの街にもあります。個人的には日本最古の観覧車のある函館公園こどもの国がとても印象に残っています。こんな場所はどこにもないと感じました。
- ・災害時の浸水・液状化による西部地区寸断リスクをどう捉えておられるか知りたいです。
- ・歴史ある建物や寺院等が点在しているから、ループ可した路線バスを何本も走らせ観光客や市民も気軽に散策できるようにしてはどうか。コロナが終息したら必ず観光需要が戻るのだから、坂を利用した建物で眺望が常に楽しめる宿泊施設があっても面白いのかなと思う。定住人口増は望めないの、今ある街並みで残すものは残す、スクラップ&ビルドで市民が必要としている施設を作るしかないのかと。選挙の時に、アンケートコーナーを設けて市民から意見・提案を募れば面白いのでは？基調講演で岡崎氏も言っていました、空港に市電が繋がると劇的に街の人の流れが変わるなどずっと思っていました。函館を訪れた人ほとんどが思うことだと思います。困難でしょうが、実現したら今後の函館が面白くなるなどと思います（湯川終点から松倉川と根崎グランドの間のルートから空港まで延長できれば）。西部地区に限らず、今後の空き家空き地問題について民事基本法制の見直し法案が施行されて少しは改善に向かえばと思っている。
- ・まちづくりを推進する会社が出来て、受け皿ができたことは素晴らしいと思う。この会社が真の意味で西部地区発展に資する結果を出すことを切に希望する。その前段として、函館市をどのように維持発展させていくか基本的な考え方をどこまでこの会社が共有できるかも大切なことである。外環状線が開通したことによりますますこの町が外側に伸びていくことが考えられるが、過疎化が進む中でコストをどのように抑えて町を作っていくかが問われている。JR の在来線撤退も大きなマイナス要因になる可能性がある。インバウンドも当分期待できない。こういう苦しい中で、西部地区にどこまで資金を使えるかは、この会社がどういうアイデアでまちづくりをしていくにもかかっている。
- ・今回立ち上げた会社は結局のところどういう方向性で何をしていくのかわかるようにしてほしい
- ・設立されたまちづくり会社がどのように稼いでいくのか全く見えなかった。旧道庁の活用や西小学校・中学校跡地あたりを想定しているのだろうが、拡張性に乏しく、再投資に回せるほどの利益は確保出来ないのではないのか？また、まちづくり会社の顔がなぜ、函館のステークホルダーではないのか？オガールのような成功を目標とするならば自らの生活と人生を賭けてでもリスクを取れる人材（そんな人材がいるのであれば）にすべきだったと思う。このコロナ禍に函館市民の税金を 2,000 万円も投入してでも成し遂げたいとの思惑があるのであればもう少し真剣に考えてほしかった。残念な

がら今回のプロジェクトは成功のにおいが全くしない。

・この会社の役割は？ 官民会社が成功した例は函館になし、結局何もせず終わること必至、役所のアリバイ作りか？ 社長は函館の現状を把握しているの？。

・知りたいこと

・(岡崎さんの話にあった) なぜまちづくりをするのか、ビジョン

たとえば、

西部地区に暮らす人を増やす？

西部地区に暮らしている人が住みやすい街を作る？ (交流のまち)

西部地区の古建築を守る？

市内の人が西部地区で楽しい時間を過ごす？

・この会社はその中で何を担うのか

・この会社以外は、どこが何を担うのか

・そもそもなぜ西部地区なのか

これがはっきりしないと、大多数の西部地区住民以外の理解は得られません

・西部地区の住民の声は届いているのでしょうか

もっと集める必要があると思います

・若者や女性、子育て世代、年配者などの実際の声は届いているのでしょうか

・ワークショップなどはありませんが、この会社の活動に反映されるのでしょうか

・「ちょっと暮らし」の利用者数や滞在日数調査が発表になってますが、

函館はランク外 (実際は何位なのでしょう)、15年ほど前の「不動産紹介ツアー」を体験して移住した身としては、現状を寂しく感じます。いろんな意味から函館ほど知名度のある都市で、「ちょっと暮らし村」みたいなのが西部地区にあつて、地元の人もつどい、交流し、一緒に魅力を発見するなんてできたらいいと思います。

・今回のパネルディスカッションに関して、大学の先生方などが多く、年齢層、性別に偏りがあり、唯一、岡崎さんの意見は比較のリベラルでしたが、もっと女性や若い層が参入しないと、どうしても偏ってしまう危険性を感じました。例えば実際に動き始めた際に、居住する可能性のある、また、ターゲットとしているような家族層や本州からの移住者からの意見の方が重要ではないかと思います。

グラフィックレコーディングをした女性二人に意見を発表させたのは良かったのですが、時間の都合で質問が蔑ろにされたのは残念でした。

・この7月に故郷、函館に呼ばれるかのようにもどってまいりました。父が、太平洋戦争から帰還した当時の西部地区のようすをイキイキと日記にしていることから、この地区に住みたいと強く願うようになりました。

住んでみてお気に入りには…

・石畳みの先に赤白のクレーンが並ぶ函館湾をのぞめるところ

・毎日、正午の夕方5時に船の汽笛と教会の鐘が鳴るところ

・函館山の草木、鳥、虫がすこぶる元気なところ

・坂の傾斜がちょうどいい！

・歩くと足腰に心地よい負荷がかかるところ

(きっと坂好きにはたまらないはず)

- ・ギスギスした人がいないところ

(会う人会う人、穏やかないい人ばかり)

こんなエネルギーに満ちた人たちが住む「まち」だったらいいなあ、と思います。

- ・食の大切にしている
- ・常に体を整えている
- ・メンタルを整えている

その方法を知っている。

・函館出身者です。住まいは郊外でしたが、旧函病で生まれたものとして、西部地区は故郷そのものと思っています。なので、本件を発端として西部地区のまちづくりが大きく進展することを期待していますし、ご協力できる事があれば参加したいとおもいます。一方で、函館市民の気風の短所である「よそ者への風当たり」「個人の好き嫌いの感情が事実以上に判断へ影響する」という面が、事業会社に対して障がい・課題とならないだろうか。と危惧します。多くの困難があるかとおもいますが、随時発信を続けてください。応援しながら拝見していきます。

- ・西部地区の鮮度のある情報提供楽しみにしております。
- ・西部地区は歴史的な建物が多く、それらの保存に関わってきた人たちが多くいますが、多くの方が高齢になってきて新たな魅力を生み出す雰囲気とは思えません。これからは保存だけではなく、歴史的な建物を活用しながら新たな魅力が生み出せる新しい感覚の若い人材が必要だと思えます。新しい会社にはそのような人たちを支援し、後押しできる仕組みがあればいいなと思えます。
- ・地道にエリアで活動されてきた方々によりかたちになった HWeR、西部地区の良いものを守り、また、時代に応じて変えていく取組みに微力ながら関わりたいと考えています。
- ・対象地域には多くの坂があるのでリスボンやチューリッヒのような都市型の可愛いケーブルカーの導入を検討することは、住民の暮らしのためにも観光振興にも、一考の価値があると思えます。西部地区の2カ所程度の坂に通し、住民が横移動すれば済むようにします。それと市電の停留所をつなげば対象地域の公共交通の利便性は格段に高まります。南部坂を通せばロープウェイともつながり、都市に居ながら箱根のようにさまざまな乗り物に乗られる楽しみも生まれます。もう一カ所は観光地から少し離し、直線が長く続く幸坂あたりが良いのかなと思えます。西部地区での暮らしが函館最大の宝であり武器だと思えます。応援していますので頑張ってください。
- ・まずは、アイデアを実現するための手段、可能な行動を考えたい。協力的な地主が誰かいるのか知りたい。
- ・西部地区が観光客だけではなく、市民が何度も足を運びたくなるような魅力的な地域となっていくことを期待しています。
- ・函館を知らない人間が代表、函館の会社経営者のみ、市民目線にならないのでは・・・ただの、不動産会社のあつまりにしか見えない。中途半端にまちづくりに意見をだしてやるならやらないほうがいいと思う。絶対、中途半端に終わるのでは…代表は、地元の間人でないとダメ。後は、函館市民を数多く参加させないと、失敗するのでは…You Tube 見てもよくわかる通り、結局観光客だよりのまちづくりなら、また同じ事の繰り返し。
- ・まちの会社が立ち上がったと聞いておりますが、地域市民はよくわかりません。特定のひとだけではなく、市民との関係を。でなければ応援できません。
- ・まちづくり会社は日々地域とともに進む中、今現状は全然会社としての「顔」がみえません。これ

からの取り組みを若干期待しております。

- ・ともかくビジョンの共有にお金をかけても良いと思います。

- ・地元へのヒトの環流の仕掛け人を上では推しましたが、函館は超がつくほどの全国ブランドですから、ファン→リピーター→関係人口→移住 という流れも作ってほしい。そのための「短期定住」や、サテライトオフィス、起業、就労の場を西部に展開する、その際に、古民家の空き家を含めた歴史的建造物も活用していく、というのもありでは。非常に遠大な話ですけれども、函館はひづめみか〜るさんをはじめ、デザインやイラスト、さらに建築家、写真家など、クリエイターは少なくありませんが、そういう人材育成をする学校がありません。西部地区の小中学校廃校舎活用の手段のひとつとして、クリエイター育成の専門学校の誘致を考えてみてはいかがでしょうか。

- ・30年以上ほったらかしにしてきた西部地区の街づくりと振興だが今回も期待薄。これまでの西部地区の遅延を総括していないシンポ、参加者（山内さんは指摘してたが）に期待は持てない。違う枠組みがあるはずである。

- ・市民参加。

- ・「行政主導から民間主導・行政支援へ」というフレーズに大変共感できた。まちづくりは行政が行うことという強いイメージを変えていくためには、こう言ったシンポジウムやホームページ上での発信はもちろん大切であると思うが、それと同じくらい大切なことは地域住民との対話だと思う。不信感を生まずに対話できるということが行政の強みであるならば、地域住民との対話から信頼関係を築きながら、まちづくり・関係人口情報をいち早く収集し、人材の情熱が冷めてしまう前にそれに合わせた支援を検討・提案し動いていく必要があるのではないかと。そうした実績を残し、発信していくことで民間主導・行政支援というイメージが根付いていくのではないかと。また、単にまちづくりといわれるとハードルが高く感じるが、ささいなことでもまちづくり・関係人口であることを肯定し、地域住民の情熱を生み出すことも大切ではないかと思った。

- ・スタンプラリーの様に見所を募り沢山紹介できる場所を増やすといいと思います。

- ・町内会の活動は参加させてもらいます。